

**令和5年度第2回小牧市児童館運営委員会
会議録**

日 時	令和6年2月8日（木）午前10時10分～午前12時00分
場 所	まなび創造館 研修室1・2（ラピオ5階）
出 席 者	<p>【委員】9名（※敬称略） 植松 浩二郎、中野 江美子、富嶋 恵子、中島 智子、長谷川 留美子、田中 昌代、高嶋 利那、倉知 日出美、小島 恵子</p> <p>【事務局】14名 こども未来部長、こども未来部次長、指導保育士、多世代交流プラザ所長、多世代交流プラザ事業推進係長、多世代交流プラザ児童館担当、こまきこども未来館副館長、味岡児童館長、篠岡児童館長、小牧児童館長、小牧南児童館長、北里児童館長、西部児童館長、大城児童館長</p>
会 議 内 容	<p>1 こども未来部長あいさつ</p> <p>2 報告 （1）令和5年度児童館の現状報告 （2）令和5年度児童館・子育て支援室利用状況について （3）児童館利用者アンケートについて</p> <p>3 議題 （1）令和6年度 児童館活動方針・活動目標（案）について （2）令和6年度 児童館クラブ活動・行事計画（案）について （3）令和6年度 児童館の子育て支援（案）について</p>
事 務 局	<p>委員の皆様方には、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今より、令和5年度第2回小牧市児童館運営委員会を開催いたします。</p> <p>はじめに、会議の定足数に関して報告します。小牧市児童館の管理に関する規則第15条第2項で過半数の出席が必要とされていますが、本日は9名の委員に出席いただき、会議は成立しています。</p> <p>早稲田委員からは、事前にご欠席の連絡をいただいております。</p> <p>また、この会議は公開となっておりますが、ただいまのところ傍聴者は0名となっております。</p> <p>それでは、こども未来部長の川尻より、あいさつを申し上げます。</p>
こ ども 未 来 部 長	<p>皆様、おはようございます。本日はご多用にもかかわらず、令和5第2回小牧市児童館運営委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、皆様方には本市の教育・福祉行政の推進に日頃より格別のご支援・ご協力をいただき、改めて厚く感謝を申し上げます。</p> <p>さて、今年度につきましては、5月に新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行となり、一定の感染対策は継続しつつも、大きな制限もなく順調に事業を実施することができており、児童館としての本来の姿を取り戻しつつあります。</p> <p>しかしながら、地域コミュニティの希薄化や価値観の多様化など、課題が複合的に絡み合い、児童を取り巻く環境は複雑なものとなっております。こうした中、子育て世代が抱える育児への不安解消の他、児童に対しても物理的だけでなく、心の拠りどころとしての居場所づくりにしっか</p>

	<p>りと取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>本市における子育て支援の拠点として、各児童館、こども未来館ともに、今後益々発展していくために、委員の皆様には、それぞれの見地から、忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願ひいたします。</p>
事務局	<p>ここからの進行につきましては、規則第14条第2項で「委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。」ことが規定されていますので、植松委員長よろしくお願ひします。</p>
委員長	<p>それでは、早速、次第に従いまして報告事項に移らせていただきます。</p> <p>(1) 令和5年度児童館の現状報告について</p> <p>(2) 令和5年度児童館・子育て支援室利用状況について</p> <p>を一括で報告させていただきます。最初に、児童館の現状報告からお願ひします。</p>
各館	<p>【こまきこども未来館副館長】</p> <p>それでは、(1) 令和5年度児童館の現状報告について、説明いたします。お手元の資料1をご覧ください。</p> <p>こまきこども未来館のコンセプト「また来たくなる未来館～未来リテラシーを育む～」子どもが主役となって活躍し、子どもの夢への挑戦を応援する施設を心にとめながら、令和5年度は「自分の思いや考えを出すことができ、仲間と一緒に考えたり実行したりする経験を通して、力を発揮する、自分の良さを感じる」ことができる、居場所となるように考えて行なってきました。</p> <p>幼児親子は、雨天や寒い暑い日は特に多くの利用があり、4階だけでなく、3階でも安心して遊ぶ様子が見られるようになってきました。アリーナ、子ども開放で体を動かして遊ぶ小中学生も増えてきました。</p> <p>交流ひろばやでは、「ダンギタ」や「音楽イベント」「中高生クリエイター」、こどもスタッフは「季節のイベント」「ゲーム大会」など子どもたちのつぶやきから、やってみたいことができるようになりつつあります。また、ダンギタからストギタと発展し、披露することで自信を感じ、企画を仲間とやり遂げることで、自分の良さや仲間の良さに気付きつつあります。講座委託「体験ひろば」においても、子ども主体のプロジェクトでの経験を基に、「楽しかった」から次の「披露する、教える」誰かにつながる姿にステップアップしつつあります。1月にはスマホ利用について考える「第1回未来館こども会議」があり、「どきどきした。」「恥ずかしかった。」「話せてよかった。」「自分たちで決めていけるのかも…。」会議後の振り返りの意見がありました。</p> <p>小さな経験を積み重ねながら、子どもたちの過ごしたい、居場所となる未来館にしていきたいと考えています。</p>

【特定非営利法人10人村代表 坪井】

体験ひろばの講座開催を委託されております10人村です。こまきこども未来館のコンセプトである「未来リテラシーを育む」ということで、今年度はどれだけ子ども達の声の聞けるかに重きを置いて運営して参りました。また、こども家庭庁が創設され、「子どもの声」と言われておりますが、子ども達から実際に生で聞ける声、心で聞く部分など様々な目線で吸い上げ、多くの経験をする事で多角的な運営をするよう心掛けています。

不登校気味の学生がプレイヤーとして企画に参加し、未来館で得た経験が少しずつ自信につながっていく姿も見られました。

発明クラブやデジタル隊など、多くの講師が参加して下さり、プロフェッショナルな技を伝えながら子ども達の関心のある部分と合致するような場面も見られました。また、今年度はそれらの活動を支えていただいた市や企業、個人の輪を深まっておりますので、来年度においてもさらに子ども達の声の聞きながら運営していきたいと思っております。

【小牧南児童館長】

小牧南児童館は、小牧市南部コミュニティセンターとの併設館で、ふらっとみなみの愛称で親しまれており、「すべては子どもたちの為に」を合言葉に運営を行っています。

今年度の施設目標は「つなぐ～ふらっとみなみ20周年に向けて～」としました。当館が所在する「ふらっとみなみ」は、本年開館15周年を迎えました。おこがましい目標ではありますが、現状維持をするだけでは時代の変化に伴わず来館者のニーズにも応えられません。コミュニティーセンター併設の児童館が人・時間・組織をつなぎ地域のハブ施設となることで様々な要望に対応し、この先の地域づくりの一助となるための目標としました。

今年度大きく変わったこととしては新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に移行され、「新しい生活様式」は残しつつもマスクは個人の判断・検温の実施が緩和されることとなり大規模イベントが開催できる環境となりました。しかしながらコロナだけでなく感染症のリスクは今後も続きます。更に気候の変化が著しく、災害級の暑さや大雪など身の回りの生活を脅かす状況は今後も変わらないでしょう。

その中で児童館が利用者にとって居心地の良い場所となるために、現状を踏まえ未来志向の運営を目指すために職員一同誠心誠意努めて参りました。主な活動については資料をご覧ください。

大型イベントはもちろん、毎日の関わりの中から来館者のひとりひとりに向き合い、何を求めているのか、それにどう応えていくのかを常に考えて行動してきました。すべてがうまくいっているわけではありません。最善の対応はどうあるべきかということ職員間で共有し、来館者対応に反

映するよう努力しています。

来年度もこれまでの講座やイベント・様々な遊びを企画し、乳幼児から中高生までが楽しく居心地の良い場所となるよう取り組んで参ります。人気の講座や教室は外部講師とともに見直しを検討したり内容を工夫したりして、たくさん子どもたちに参加してもらうことで「できた！」という達成感や「たのしい！」という良い思い出作りにつながり、「また来たい！」と言ってもらえる施設になればと考えています。

児童館は「子どもの館」です。昨今の大人の事情で館の運営が左右されるのではなく児童福祉の基本理念に立ち返り、子どもの特性を理解し「子どもたちの為に」行動出来るよう、児童館としての「子育て支援」に努めてまいります。

誰もが気軽に「ふらっと」立ち寄り、すべての方々が「ほっ」と一息つける居心地の良い空間であること。「全ては子どもたちの為に」という想いが職員だけでなく、保護者や地域の方々に広がっていく様、引き続き真摯に運営をしていく所存であります。小牧南児童館からは以上です。

【小牧児童館長】

小牧児童館です。よろしくお願いいたします。

行事に関しては資料1-3をご覧ください。令和5年度は5月にコロナが5類に移行したことにより人が急に動き出し、児童館・に来館される方も増加しました。また行事の開催に関してもコロナ前に戻っているという印象があります。ただ利用される方はそれぞれが感染対策に関しいろいろな考えを持たれているため、安心して利用いただけるように感染対策を行いながら、いろいろな事に取り組んでいます。

令和5年度の新たな取り組みとして一番大きなものは青空食堂穂の香主催のもと、児童館の敷地内の一部を貸し出して子ども食堂の開催を行ったことです。最初は家族で持ち帰るという方が多かったのですが最近は児童館内の飲食を希望される家族や子ども達が増え、賑やかに食事をする様子がみられます。子どもたちや家族のコミュニケーションの場に食事を提供し、その中に児童厚生員が入り参加者と会話するという形で取り組んでいます。父親の参加も増えています。

また夏休み、冬休みの長期休暇を利用して小学生タイムを開催しました。児童館を小学生だけに開放して子どもが自ら遊びを選択し、のんびりと一日をすごしています。長期休暇中はどうしても子どもたち同士の関わりが少なくなってしまうため、それらを解消するために小学生タイムというきっかけで集まることにより子どもにとり良い刺激となっていると大人気のイベントとなっています。

地域とつながるという点では小牧小学校区の地域協議会に参加し、遊び

で地域をつなぐ3世代交流会のお手伝いをしました。地域の方と一緒に考えイベントを開催し、地域の方をお招きしました。また上新町の盆踊りや秋まつりにも参加させていただきました。

中高生に対しての取り組みとしましては、中高生タイムの開催、小牧中学校の注文ボランティアの受け入れやココボラの学生などのボランティアの受け入れも積極的に行いました。未来館や図書館など設備の整った施設が近隣にあるため、中高生の居場所作りに難しさを感じながらも、来館してくれる子との関わりを大切にしたら結果、少しずつリピーターが増えていきます。これからも、すべての子どもたちの居場所となれるように努力を続けていきたいと思えます。

【西部児童館長】

西部児童館です。よろしくお願いいたします。資料1-4をご覧ください。小牧市西部児童館は、小牧市西部コミュニティセンターとの併設館で、ゆう友せいぶの愛称で親しまれており、「みんなが笑顔になれる場所」をスローガンとして運営を行っております。

今年度はコロナの制限がなくなり、今までできなかった大型イベント、食育なども実施することが出来ました。やはり数年行っていなかった事と、職員の異動などもありましたので、新たに一から考えなおし、目的が何だったか、改めて原点に戻る良い機会にもなりました。

そういった意味でも、今年度は水遊びや星空観望会、花火大会など、今までに取り組んでこなかった新しい企画が実施できたことは嬉しい事ですし、今まで行ってきた夏祭りや節分も、今までは児童館の中で完結していた事も地域を巻き込み、運営協議会、コミュニティセンターとの共催でより多くの利用者に喜んでいただくことが出来ました。

子育て支援室では、より利用者にとって使いやすくなるよう、おもちゃの変更・更新、備品・設備配置の変更等を行い、来館者から「広くなった」「使いやすくなった」とご好評を得ております。そういった対応や「はいはいレース」などの大人も楽しめるイベント実施の影響か、支援室の利用者が増加している傾向があります。

新規利用者には必ず「何の媒体で児童館を知ったのか」聞くようにしているのですが、「他のママから聞いた」というような口コミが一番多いようで、お友達同士のSNSなどで来館に至るケースが数多く聞かれます。そういった意味では一定の満足度が得られている証であると感じるとともに、対応一つ一つを大切にしないと、気が引き締まる思いです。

さて、今年度の強化目標にもある通り、子どもの意見を運営に取り入れるため、こどもプランナーを中心に、様々な遊びのプログラムの実施や購入物の選定なども行いました。具体的には映画会の上映作品の選定、おも

ちやや漫画といった物品・備品の購入、子ども企画のオバケやしきや夏祭り・・・今までは職員主導で決定していたことも、子どもの意見を取り入れながら進める事が出来ました。

また、それだけでなく、職員の意識を「指導型」から「子ども主体型」に変えるために、子どもの権利に対する研修を実施し、「先生」という呼び方もやめたり、工作の制限を無くしたり、遊戯室での遊び方も「危ないからダメ」と今までルールで縛っていた事も緩和し、少しずつではありますがこれからの時代に向け、転換を始めたところでもあります。その為か今までの課題でもありました中高生の利用減少も歯止めがかかり、今年度はむしろ増加傾向にあります。

まだまだ児童館ガイドラインにある通りとまではいかないのですが、子どもの声を運営に入れていくのは、児童館の義務でもありますので、来年度はさらに「子ども予算」や「子ども会議」というような子どもによる児童館運営の参画も視野に、新たな取り組みが出来ればと考えております。この流れが西部児童館だけにとどまる事無く、小牧市全体の流れになるよう、より一層精進し、真摯に子どもと向き合った運営をしていきたいと思っております。西部児童館からは以上です。

【味岡児童館長】

味岡児童館館長の野地と申します。よろしくお願いいたします。

コロナ禍から日常の児童館運営ができるようになり、こども達が楽しめる機会や活動が増えてきました。

資料1-5をごらんください。味岡児童館の特徴でもある館庭、そこに設置してあるかまどを使用した調理企画、地域住民からなるサポーターや地域の住人、施設との協働活動等、地域運営という味岡らしさを活かした活動を進めてきました。小さいこどもと一緒に来館する親子にはふれあい楽しむ時間を、日々の育児の中で不安を抱えたり、心配になっているママには寄りそったり、小学生以上のこども達には自分の力が発揮できる場やチャレンジする機会をと、どの活動においても意見や主体性を大切にこどもと向き合い、見守ることを意識してきました。

今年度から児童館の在り方や活動を企画するこどもスタッフの活動を始めました。多年齢で構成されていることもあってか活動の進捗はとてもしっかりです。意見を聞く、考えあうこともこども達の力になっていくと、手順を示すのではなく、自ら考え行動できるように見守っています。

また中高生を対象としたアオハルナイトも少しずつ認知され、遊びの他たわいもない話や、時に心情を吐露できる安心して集える場としても定着してきています。

こどものつぶやきに耳を傾けられる日常や環境をつくり、こどもが自分

の考えや思いが表現できるような工夫と関係づくりをしていきたい、と考えています。味岡児童館からは以上です。

【篠岡児童館長】

篠岡児童館は「児童館で遊ぼう・楽しもう」「地域と共に育ち合う児童館」ということを大切に運営しております。地域ぐるみで育ち合う児童館として、サポーターさんの協力で児童館まつりやコンサート、今年度は4年ぶりにきもだめし、おもちつきを開催したり、小学校の総合学習への協力、中学生のボランティア活動を通して近隣小・中学校と連携を取っております。子育て支援として、資料に記載しましたように赤ちゃん対象の講座から小学生対象の講座まで開催しておりますが、イベントや講座のみならず、日頃、児童館で過ごし、「楽しかった!」と感じられたり、ほっとできて「また来たいな」と思ってもらえることを大切にしています。単なる遊びの提供ではなく心のつながりが持てるような関わりを大切にしています。特に一人で遊びに来た子にはなおさらで、職員との心のつながりを持てるようにし、職員を介して他の子どもとも遊ぶ機会を持ち、子ども同士のつながりも生まれてくることがあります。職員が子どもとのあそびを通して信頼関係を築くことで、何気ない会話から家庭環境が見えてきて見守りや支援が必要だと分かることもあります。

子育て支援室でも孤立した子育てとならないよう、ママ達がホッとできて、子育ての悩みを気軽に話せたり、子どもの成長を喜び合ったり、何気ない会話をする中で職員とのつながり、ママ同士のつながりが持てるようにしています。

篠岡児童館には広い館庭があります。遊具や砂遊び、ボール遊びに鬼ごっこ、大縄跳びなどを通して、異年齢や学校の違う子ども同士の交流もあります。来年度は館庭がある強みを生かし、小学生を対象とした講座を2つ考えております。学年の枠を超え、体を動かして遊ぶものとかまどを使って簡単なクッキングを楽しみたいと思っております。

【大城児童館長】

大城児童館は指定管理を受けて15年目となります。子育ての輪を横にも縦にも深めたいと思っていた中では、今年度は行政、小学校、保育園と連携して親子支援をしたケースもあります。各機関との信頼関係が構築されているからこそ、うまく連携できたのかなと思っております。

今年度1番挑戦した部分としては、前年度から開始した平日の一時預かり事業についてであり、利用者が多い時は月平均30組ほどの利用があります。

どのような方から需要があるかと言いますと、少しだけでもいいから預

かってもらえると思う方が多く、時には飛び込みでいらっしゃる場合もあります。一時預かり事業を開始したことで、職員の中には良い緊張感が生まれており、子育て支援室とはまた違った笑顔の輪が広がっています。

中高生の居場所づくりについては、毎月第1日曜日に集まり、児童館イベントについて一緒にやらないかを相談したり、自分達が過ごす所をどう作っていくかについて話し合ったりしております。また、「人をもてなす」ことが活動であるという認識を共有してくれていおり、3月に開催予定のわらべかんまつりでは、新たにブースを作り展開しようという動きも見られます。

多文化共生の面では、地域の日本語教室を開いている方へ場所を提供し、外国籍の多い東部地区に支援の輪を広めています。また、課題教育の展開の面では、12月に「こどもマルシェ」を開催し、東部まちづくり推進室共催の形で進め、地域を盛り上げるとともに、子ども達がお店を作りながら現金で直接売買を行う取り組みを実施しました。最初は、体験のような“お店ごっこ”でどうかとお話がありましたが、実践的にやってみようということで、子ども達自身で値付けやつり銭の計算を行う形で行い、支援しました。

最後に、ヤングケアラー対策として、行政から相談員の方にお越しいただき、児童館内で気になる親子や児童について報告しあいながら連携して対応しています。

【北里児童館長】

北里児童館の平手です。よろしくお願いいたします。

昨年、北里児童館は開館30周年を迎え、初心に戻り、基礎をしっかりと意識した1年でした。今年度も引き続き、基本を見直し、来館者のため何ができるか考える1年とし、来館した保護者や子供たちの会話や遊びに積極的にかかわり、信頼関係を築き、また来たいと思ってもらえるような館づくりを心掛けました。その成果が出たのか、今年度、中学生の利用が大きく伸びました。受付での職員の声掛けや、遊びでの関わりが中学生の信頼を得るきっかけになったと思います。

館内の様子は、月替わりで提供している工作に、小学生からこの工作をやってほしいとオリジナル工作の提案がありました。子どもの方からアイデアをもらえることに私たちも嬉しく、普段の児童館に子どもの“やりたい”が反映される第一歩になったように思います。

また、リーダー育成活動のこどもプランナーでは、プランナーが考えた夏祭りのほかに、今はじっくり時間をかけて冬のお化け屋敷クイズラリーを準備しています。今年から加入したメンバーも多いですが、みんなが意

	<p>見を出すことができ、時にはぶつかりあい、譲り合いながら成長しているように感じます。</p> <p>また、今年度初めて開催した移動水族館には職員も驚くほどの来館があり、子どもも保護者も大満足の様子だったのが印象的でした。</p> <p>子育て支援室は、部屋が完全に分かれているとこともあり、ゆったり過ごせると評判で、多くの親子の利用があります。来館者との関わりに重点を置いて、保護者との会話を大切に、お子さんとゆっくり過ごしてもらえよう努めています。お楽しみ会や広場など、来館のきっかけとなる活動をし、引き続き来館してくれるよう丁寧な対応に努めています。</p> <p>地域とのつながりとしては、北里小学校区・小木小学校区の地域協議会に参加し、今年は初めて小木小学校で開催された健康まつりへ出張児童館を行いました。また、昨年に引き続き、北里小学校区地域協議会主催の北里フェスティバル、北里小学校の放課後子ども教室へ出張し、普段児童館に来館がない子との交流もできました。</p> <p>児童館の夏祭りや、出張児童館には北里中学校のジュニア奉仕団をお願いしています。来館者と関わることで、地域とのつながりや、相手を思う心が育っていると感じます。来年度もぜひお願いしたいです。</p> <p>時代も変化していき、子ども家庭庁も創設されました。“こどもまんなか”を心に、来館者の居場所となる運営をしていきたいと思えます。</p>
未来館副館長	<p>続きまして、(2) 令和5年度児童館・子育て支援室利用状況について、報告します。お手元の資料2をご覧ください。</p>
委員長	<p>ただ今、令和5年度児童館現状報告、並びに令和5年度児童館・子育て支援室利用状況についての説明がありました。これについて委員の皆様方、ご意見、ご質問はありませんか？</p>
田中委員	<p>大城児童館の12月行事「こどもマルシェ」で“現金”で直接売買をする体験がすごいなと思いました。現在は、スマートフォンでのバーコード決済が増えていて、現金で支払う機会が少なくなっていると思います。</p> <p>お金の使い方を身につける機会というの、なかなか子どもだけで買い物に行く・行かないもありますし、親と行っても親が買い物をして終わる場合など、「お金」に関わらないで終わってしまうことが多い。そういった中で、こういうような機会ですら直接、自分達でお金の計算をしてやり取りできるのはすごくいいなと思いました。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他にご意見ありますか？</p>
副委員長	<p>小牧児童館のキッチンカーについて、以前から取り組みを実施するとお聞きしておりましたが、青空食堂穂の香に協力していただいていると思うのですが、どれぐらいの頻度でやられているのでしょうか？月ごとではなく、年に数回という形でしょうか？</p>

小牧児童館 館長	青空食堂穂の香さんが忙しい時期もありますが、今年度に関してはなるべく1か月に1回実施したいということで、1か月に1回の実施をしております。
副委員長	以前は、食事を持って帰って食べたりしていたと思いますが、今はどのようにしていますか？
小牧児童館 館長	児童館とほの香さんとで分かれて申込を受け付けているが、毎回100食程の申込がある。当初は、館内で食べていかれる方はおよそ30名程度でしたが、現在は小学生が友達と一緒に申し込みをしたり、家族で申し込みをする方も増えており、館内で食事をされていくのは50名程に増加しました。
副委員長	館内で食事をするスペースはありますか？
小牧児童館 館長	はい。あります。 あまりに人数が多い時は、遊戯室に長机を置いて対応し、小さい子供たちには、幼児用のテーブルを配置して対応しております。
副委員長	業者がやられているので、問題はないと思いますが、衛生面についてはどうでしょうか。
小牧児童館 館長	職員が配膳する時には、必ず手袋の装着、アルコール消毒、ゴミについてもしっかり分別しております。机なども、何かあってからでは児童館への信用も失われてしまうので、新型コロナウイルス感染症対策の時と同じように、職員も十分に注意しながら消毒しております。 食中毒に関しても配膳の直前まで青空食堂穂の香に温度管理など、しっかりと管理してもらっており、安心して提供出来ているかと思えます。
副委員長	保育園とは違い不特定多数の方が来館されるので、しっかりと気を遣いながらやられているのかと思い、お聞きしました。 もう1点、大城児童館では早くに様々な事業に取り組まれると感じており、こどもマルシェでの取り組みもそうですが、ヤングケアラーについても着眼点がいいなと思っております。それから、以前から気になっていましたが一時預かりは順調に実施できているのでしょうか？飛び込みでの利用もあるとのことですが、対応などいかがでしょうか。
大城児童館 館長	お答えさせていただきます。 一時預かりに関しては、平日3組までを上限にさせていただいております。3組といっても当然担当がワンツーマンで見ますので、状況があえば1日5組となる時もありました。同時に3組といった状況を作っていた中で、手慣れた保育士があやすので、上手なのではないかと私自身も思っています。 突然の利用というのはあまりありませんが、「1時間だけの利用でも大丈夫ですよ。」とお伝えすると、電話がかかってきて“それでも助けてほしい”というようなケースもあります。

副委員長	すごく漸進的なやり方を取り入れてみえる印象を受けました。
大城児童館館長	せっかく綺麗に作ってもらった児童館を長く綺麗に使えないかなと相談をしていく中で、職員から「一時預かりを実施したら、利用者から喜ばれるのでは」と話があり、子育て世代包括支援センターでも実施しておりますので、東部でも実施したらどうかと行政と事前に話し合いを進めながら、部屋も一部改装しながらと1番安全に管理できるよう動いてきました。最初は「支援室で問題なく預かれる」と話していたが、預かるためには道具なども必要になるので、支援室の整備が重要であると職員から強く言っていただけたので、相談しながら取り組んで参りました。
副委員長	それでは、事業は順調ということですね。それだけお母さん達が助けられているということだと思います。
大城児童館館長	ヤングケアラーの事業について1点申し上げます。 大城児童館独自の取り組みとして発信しているものではなく、行政がそういったセクションを作成して、たまたま私たちの児童館で相談に至ったケースがあったということで報告させていただきました。
委員長	その他にありますでしょうか？
富嶋委員	どの児童館も“居場所”を大事にされていて、一貫して取り組まれている本当に素晴らしいと実感しました。児童館で取り組まれているイベント、対策等が季節感、時代を先取りしてヤングケアラーを含めて工夫されているのを強く感じました。また、各イベントを開催するにあたって、子どもがお客さんではなく主体者として「主体性」を育んでくださるところ、そういった着眼点で運営されているのは非常にありがたいと感じております。 西部児童館に質問ですが、西部児童館は“ルールを外す”ことについて、中高生の利用が増えたとおっしゃっていました。具体的にどのようにルールを外すことで利用者が増えたのかお聞きしたいです。質問の背景として、今年度の小・中学生の不登校者数の人数が増加しており、日中学校がある時間帯に不登校の子が児童館に行くのは敷居が高いと感じているのですが、そういった児童への代替策のような取り組みについて児童館として考えてくださっているのかお聞きしたいです。
西部児童館館長	ご質問の件につきまして、回答いたします。 まず、私が4月から西部児童館の館長に就任し、はじめはルールで決められていることが多く、例えば遊戯室では“遊戯室で出来ること”というのがメニュー化され、用意されていました。縄跳び・ボールはつくだけ、投げるのはダメといったようなルールが設定されており、1度職員間で話し合いをし、子ども達の自由にさせてみるということにしました。 今までドッジボールを禁止していましたが、「ボールを投げて遊びたい。」といった声もあり、子ども達から要望があるのならとやらせました。

	<p>職員の一言目からは「危ないのではないか、怪我につながるのではないか」とよく言われましたが、怪我に繋がらないように職員が一緒に付いて見守ればいいのかという判断に至りました。また、現在は大きなマットを使用することがありますが、元々はクラブ活動の時しか使用してはいけないというルールでした。</p> <p>子ども達からの要望の中から、実際に子ども達が使いたいモノを使わせてみると、飛び跳ねたりして自由に楽しむ。そういった場面を職員が付いて、危険がないように見守りながらも子ども達の気持ちを発散させることが出来るようになることで、子どもの口コミから、また新しい友達を連れて児童館に来るようになりました。今の12月、1月の時期も、学校終わりの中学生利用が増えており、卓球をやりに来たと来館し、飽きれば隣でバドミントンに移るなど、職員としては卓球台の移動など大変な面もありますが、子ども達のニーズに応えていくことで「あそこの先生は話を聞いてくれる」というように信頼関係が構築され、来館につながっております。少しずつルールを外していくことについては、職員の中ではやはりすごく不安だった時期もあったとは思いますが、何より職員から子ども達に対して「ルールにないからダメだよ」と言うことが減り、子ども達がのびのびと過ごせる居場所、行きやすい児童館になってきたことで利用者が増えたのではないかと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>今のところに関連して、中高生の利用促進が毎年の課題になっております。資料2-1を見ていただくと上段に9ヶ月分の実績(4~12月)、下段に1年分の実績が記載されています。下段の4分の3ぐらいの実績値であれば昨年と同様、超えていけば昨年度より利用者が増加しているといえます。</p> <p>中高生の部分を見ていくと大抵のところが増えており、こまきこども未来館だと中高生が約25パーセント増えています。小牧南児童館も108人から220人に増えています。先ほどの説明の中で西部児童館はルールを緩め利用者の増加につながったとあり、富嶋委員からも質問がありました。北里児童館も職員が積極的に関わったと説明の中にありました。他の児童館でも数字が増えており、課題を持って取り組んでいるかと思えます。取り組みの中でよかったことがあれば教えてください。</p>
<p>北里児童館館長</p>	<p>北里児童館から補足説明をさせていただきます。職員が子ども達と積極的に関わるのと同時に、西部児童館と同様にルールの緩和を実施しました。今までは児童に対して「ダメだよ」と制限してしまうことが多かったですが、以前職員間で議題に挙げた例として、卓球をやりたいと申し込んだ中学生たちからマイラケットを使用したい。ダブルスをやりたい。ラケットを使わずに貸出用の大型ブロックなどをラケット替わりにして遊びたいなどの要望がありました。職員の中では、「あれはどうなのか、安全なのか。」</p>

	<p>といった声は挙がったものの遊んでいる本人たちも「どう遊んだら危険なのか」を正しく理解しており、楽しそうに過ごしていました。また、見た限りでは危険性はないと思ったため、館長判断で見守ることにしました。</p> <p>今まで制限されてきたことが、少し緩和され、職員から「ダメ」と言われることがなくなったことが中学生にとってはうれしかったのではないかと思います。</p>
小牧南児童館 館長	<p>小牧南児童館は、南部コミュニティセンターとともに中高生利用の促進を進めておりまして、児童館としては“放課後 Chill out”と称して、卓球やボードゲームで遊べる時間を延長して行っています。コミュニティセンターの広い講堂の中で卓球やバドミントンで遊べるように連携して発信しております。</p> <p>たくさんの子らに自由に遊んでいただけるというような内容で SNS を活用して情報を発信してみたり、当日来館していただいている子どもに「今日は卓球で遊べるよ。」など声掛けをしています。</p> <p>受験勉強など、学習目的でコミュニティセンターを利用する児童が多いのと中央図書館の勉強スペースがいっぱいになり、コミュニティセンターに来た児童に対し声掛けすることで少しずつ利用が増えているものと考えます。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>その他はよろしいでしょうか？</p>
味岡児童館 館長	<p>数字上では味岡児童館の中学生利用者数は減少しております。味岡児童館には学習室が1部屋ありますが、塾に通う児童が多く、以前見られたような学習目的でテスト前にこぞって来るといったような利用の仕方は減っております。</p> <p>日常的な利用については、17時30分から19時までの利用時間を延長した「アオハルナイト」の中で、個人で来館し自由に遊ぶのはもちろんのこと、先ほど話のあったヤングケアラーコーディネーターの方が、味岡児童館にも来館した際に子どもたちと対面できるような空間を作り、みんなと交流できるようお茶を提供したところ、中高生からのニーズが高まりました。そういった交流の中に学生アルバイトに入ってもらうことで、何気ない会話の中から「実は不登校だった」など、きっかけがないと切り出しにくい話を拾うきっかけにもなっています。</p>
副委員長	<p>味岡児童館の子育て支援室の実績について、支援室利用、育児相談件数ともに実績が増加しており、12月時点にしては多いように思えます。利用者が多い、利用回数が多い場合に、父母クラブへの加入につなげることなどは出来ますか？</p>
味岡児童館 館長	<p>お子さんの成長とともに児童館で出来ることとして、保護者への紹介は日々行っております。乳幼児親子の生活スタイルも変化しており、午前中</p>

	<p>に講座に参加していただき、お昼寝後に再来館する方が増えているため利用者数としては伸びています。</p> <p>また、子育てに不安を覚えている保護者は多いので、どの保護者にも声掛けをするよう職員体制をとっており、些細な悩みからそうでない悩みまで幅広く相談を受けております。</p>
副委員長	<p>母親同士のつながり、児童館との繋がり、父母クラブへのつながりと児童館として非常にいい傾向にあるなと感じました。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ご説明の全体を通して感銘を受けた部分がありました。</p> <p>1点目ですが、「子どもを育てる、子ども第一」とした考え方と、職員の意気込みが素晴らしいと感じました。2点目ですが、見守るだけでなく子どもの成長を各個人に合わせて配慮している点です。学校現場でも、1クラス30人、40人一度に見ますが、ひとりひとりの成長を意識して仕事していますので、児童館でこのように仕事してくれることは素晴らしいと思います。そして3点目が、自分達の中で完結せず、他の組織や団体と積極的に関わりを持とうとしており、これからも大事になってくることであり、どの児童館さんもしっかりと取り組まれていると感じました。</p>
委員長	<p>では、(3)児童館利用者アンケートについて、事務局説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、(3)児童館利用者アンケートについて、報告いたします。お手元の資料3をご覧ください。</p> <p>指定管理者制度を導入している児童館においては、年2回のアンケート調査を義務付けておりますが、全館共通様式を使用したアンケートを年1回実施することで、各館利用者の満足度を比較することができ、児童館運営の統一的な質の向上に努めることを目的に実施しております。</p> <p>アンケートは、児童館を利用する児童及び保護者を対象として、小学生、中学生以上、保護者の区分に分けて、令和5年12月1日から12月22日までの期間で実施いたしました。市内全8館で、小学生395人、中学生以上366人、保護者366人から回答をいただきました。</p> <p>小学生のアンケートでは、「児童館の先生とお話しますか？」の質問に対して、約73%の児童から「はい」と回答をいただいております。昨年度と比較して約7.8%アップしています。また、「児童館の先生は遊び方を教えてくださいますか？」については約4.2%アップ、「お友達と喧嘩した時や困っている時に、先生は声をかけてくれますか？」については約3.8%アップしており、自由記述にも「先生がフレンドリーで楽しい」、「ダメなことはダメと言ってくれる」といった意見があることから、コロナに伴う制限が解除され、子ども達の活動の幅が広がる中で、児童厚生員との関わりがしっかり持てるようになるとともに、単なる遊び場ではなく、コロナ前</p>

のように人との関わりを通じて学べる場になってきているものと考えます。

また、「児童館は楽しいですか？」の質問に対して、昨年度と比較すると約3%ダウンとなっておりますが、自由記述部分に「お化け屋敷をもっと怖くして欲しい・遊戯室の新しい遊びが欲しい」といった意見も見られることから、児童館で過ごす時間をより充実したものにしたい気持ちの表れではないかと思われまます。

続きまして、中学生以上のアンケートについてですが、「児童館へ行くことは楽しいですか？」の質問に対して、約89%の児童から「はい」という回答をいただき、「児童館の施設は利用しやすいですか？」の質問に対して、約95%の児童から「はい」という回答をいただいております。各館にて実施している中高生の利用促進・居場所づくりに関する取り組みの効果によるものであると考えられます。また、「どんなときに児童館を利用しますか？」の質問に対して、「勉強するとき」、「友だちと遊ぶとき」、といった声が多く、中高生にとっても大切な居場所になってきていると考えます。

また、「児童館で地域のボランティアの人と、一緒に活動する機会がありますか？」の質問に対して、昨年度と比較すると約7%ダウンしており、アンケート結果を見てもはっきりとした要因を掴むことはできませんでしたが、今後も児童館の活動を通じて底上げを図っていきたいと考えております。

今後も児童館が、小学生だけでなく、中高生にとっても、居心地の良い場所となるよう取り組んでまいります。

次に、保護者のアンケートについてですが、「利用者同士の親睦を深めたり、子育てについて学んだり、喜びを分かち合ったりする機会がありますか？」の質問に対して、昨年度と比較すると約4.5%アップしており、自由記述から「子ども、親の交流の場」、「他のお友達の遊びを参考に」といった意見が多くみられ、児童館を通じてママ友同士がつながれる大切な場になっているものと考えます。また、「お子様は、児童館に喜んで行っていますか？」の質問に対し、約99%の方から「はい」と回答を得ており、昨年度に引き続き高い水準を維持できております。また、児童館と地域のボランティア等との連携を図る項目については、昨年度と比較して肯定的な回答が増えています。各館にて、多くのイベント等を開催することができ、その際に、地域のサポーター・ボランティアや、こどもプランナー・こどもスタッフにご協力をいただいている様子を来館者が目にする機会が、少しずつ増えてきたことによるものと考えられ、今後も、地域の方々と連携しながら、地域に根ざした児童館事業を行ってまいります。

一方で、全体的に高い水準を維持しながらも「職員の対応や態度、雰囲気

	<p>気は好ましいですか？」や「子どもたちの生活やあそびの空間として、児童館の環境、雰囲気は好ましいですか?」、「児童館は衛生に配慮されていますか?」については、昨年度と比較すると若干ではありますが、否定的な回答も出てきておりますので、この結果を真摯に受け止め、今後の運営がよりよいものとなるよう取り組んで参りたいと考えております。</p> <p>以上、簡単ではありますが、児童館利用者アンケートの報告とさせていただきます。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。児童館利用者アンケートについて小学生、中高生以上、保護者と分けてご説明いただきました。</p> <p>ご質問・ご感想はありますか?</p>
中島委員	<p>北里児童館の保護者アンケートにあるように市外の方が「小牧市は子育て支援が充実しており天国です。」というような言葉があり、私自身もそう思っています。</p> <p>どの児童館のイベントを見ても企画が充実しており、“地域で子どもを育てる”部分に、核家族が多い中で意見の中にあつたように保護者の大事な息抜きの場となっており、非常にありがたい存在となっている。一市民として感謝申し上げます。</p> <p>私の住まいの近くには西部児童館があり、コミュニティセンターが併設されており、よく利用させていただいています。今日も村中小学校の放課後子ども教室の関係で会議に参加しますが、北里児童館の報告にもあつたように出張して小学校2～6年生50人ほどを対象とした工作を資材・ノウハウを惜しみなく提供していただいております。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>全体を通して非常に高い満足度となっており、「児童館は楽しいですか?」に対して、小学生は94%、中学生以上は89%、保護者は99%となっており、高い満足度の数字が出ています。</p> <p>高い満足度かつリピーターも増えていることから、他市にも誇れるいい児童館だと思います。</p> <p>各館長からいくつか課題を挙げてもらいましたが、解決に向けて取り組んでいただき、数字を100%にするよりも満足度を上げられるような部分で柔軟に関わりながら、子ども達が成長していく姿を見届けられればと思います。</p>
委員長	<p>それでは、(1)令和6年度児童館活動方針・活動目標(案)について、事務局より説明をお願いします。</p>
未来館副館長	<p>それでは、(1)令和6年度活動方針・活動目標(案)について説明いたします。お手元の資料4をご覧ください。</p> <p>目指す子ども像・活動目標ともに今までと大きな違いはありません。各館の特徴・地域性を活かしながら目標に向かって運営していきたいと考え</p>

	ています。
委員長	<p>私から1点。今説明の中にもありましたように、大きく変わってはおりません。というお話でしたが、確かに令和4、5年度と比べても方針等に変わりはありませんでした。新たにこども家庭庁が発足した、新型コロナウイルスが収束した、こども未来館の委託事業者の委託期間が満了を迎えるなどあったにも関わらず、変化がないのはどうかとも感じます。もちろん目指す子ども像としてなどが毎年変わっては困りますが、児童館全体の目標は変わらないとしても、各児童館の来年度の目標や取り組みたいことを具体的に教えていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>令和5年度取り組みとして、小牧児童館の報告にもありましたように、“子ども食堂”を青空食堂穂の香と連携して実施してきました。</p> <p>小牧市の中にはほかにも子ども食堂事業を行う団体が存在し、事業を実施する経費についてはやはり事業者の負担となっております。来年度、児童館職員と連携しながら子ども食堂を実施していただける事業者に対し、運営費の一部を補助する制度を新設しようと考えています。</p> <p>児童館職員と連携する意味合いについては、子ども食堂に集まった子どもの中には支援が必要な子どもおります。子ども食堂を通した関わりの中でそういった子ども達を見過ごさず、支援に繋げていくことを目標として来年度の取り組みとして報告させていただきます。</p>
委員長	<p>各館長、その他課題解決に向けて考えていることや、悩んでいることなど、一言ずつで結構ですので順に来年度に向けてとうい観点で教えてください。</p>
各館長	<p>【小牧南児童館長】</p> <p>中高生への声掛けがまだまだ足りないと思っております。子育て世代包括支援センターと連携したヤングケアラーコーディネーターの取り組みもなかなかヒアリングまでいかず、関係性の構築がうまくできていないことが要因だと考えられます。中高生支援ということで実施している“中高生カフェ”を強化し、もっと気楽に来れるような雰囲気作りに努めたいです。</p> <p>【小牧児童館】</p> <p>小牧児童館としては、もっと子どもの声を聞きたいと考えています。</p> <p>今までは大人が決めたルールを子どもに押し付けていた部分があり、今後は子ども達と一緒に「どうしてこのルールなのか」を考えていきたいです。もし、子ども達からイヤだという声があれば、何がイヤなのか、どうしてイヤなのかを大人がしっかりと子どもの声を聞くということを実践していきたいです。</p> <p>また、子どもがやってみたいと思っても、学校ではできないが児童館ではできるかも知れないことなど、子どもの声を反映させた企画や子ども会</p>

議をしっかりとやっていきたいです。

【西部児童館】

小牧児童館と同様に子どもの声をもっと聞き、子ども達がルールを決めていけばいいなと思っている。また、やはり不登校の小・中学生というのは少なからずおり、来年度はそういった子たちが学校には行けなくとも、児童館で過ごせる場にできたらなと思っております。

【味岡児童館】

味岡児童館も同様に子どもの声を聞き、職員発信のイベントよりも子ども達の動きに合わせたイベント発信に取り組んでいきたいです。また、不登校児童の数も増えており、今のところそういった子は学校の活動時間帯に児童館を利用することはない為、児童館が居場所であることをもっと PR していきたいと考えています。そのためには、子ども達の居場所となるにはどうしたらよいかしっかりと考えていきたいです。

【篠岡児童館】

篠岡児童館の厚生員は子ども達と遊び込んで色々な遊びをしています。遊びだけでなく、館内のルールについても子ども達と話し合いながら、子ども達・児童館のためにどうしていくことが良いのかを考えていきたいです。また、子ども同士の様々な会話をサポートしながら、児童館の企画を実施できたらと考えております。

【大城児童館】

SDGsに「誰ひとり取り残さない」といういい言葉があり、これを考えて行動していきたいです。大城児童館では、多様性に富んだ幅広いことができるような状況作りが出来ております。地域に関しては、長年サポートしていただいていた方が多いので、代替わりをし、継続して子育ての輪を広めて深めていけるとよいと思っております。

【北里児童館】

「こどもまんなか」を常に心に置き、現在検討している事としましては、子ども達から北里児童館をどうしていきたいのかを聞いていきたいです。

当然アンケートなどは実施していますが、“いいこと書かなければ”というような心理が働いているのではと考えています。フリースペースのような場所を作り、子ども達の北里児童館に対する自由な意見を吸い上げられるような環境を作りたいと思っています。

<p>委員 長</p>	<p>全館お答えいただきありがとうございました。どの児童館も子どもの声を聞き、子どもを中心に、そして不登校についても考えていただけることが分かりました。児童館としてこんな考えで努力していることを、富嶋委員から校長会へお伝えいただければと思います。</p> <p>全体として、令和6年度児童館活動方針・活動目標（案）についてご異議等ありませんか？</p> <p>ないようですので、原案のとおり承認したいと思います。</p> <p>次に、(2) 令和6年度児童館クラブ活動・行事計画（案）について事務局より説明をお願いします。</p>
<p>未来館副館長</p>	<p>それでは(2) 令和6年度児童館クラブ活動・行事計画（案）について説明します。お手元の資料5-1をご覧ください。</p> <p>共通の関心や興味をもった子どもたちが集まって活動するものです。子どもプランナーなど、子どもたちの集まる場を計画的に設け、自分たちで企画実行できる活動もあります。それぞれの館で地域性を活かして活動しています。</p> <p>続きまして、行事についてです。資料5-2をご覧ください。</p> <p>各館で地域の方の力も得ながら、子どもたちが様々な体験・経験ができるように計画しています。今後も伝えていきたい季節の行事や伝統行事も続けて行なっていきたいと考えています。</p>
<p>委員 長</p>	<p>ただ今、(2) 令和6年度児童館クラブ活動・行事計画（案）について説明がありました。このことについてご意見、ご質問はありませんか。</p> <p>異議なしとのことですので、令和6年度児童館クラブ活動・行事計画（案）につきましても、原案のとおり承認されました。</p> <p>次に、(3) 令和6年度児童館の子育て支援（案）について、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>未来館副館長</p>	<p>それでは、(3) 令和6年度児童館の子育て支援（案）について、説明します。お手元の資料6をご覧ください。</p> <p>各館でクラブや講座を計画し、親子でのふれあいや、保護者同士の繋がりが持てるように関り、子育て支援に繋がっていくように行なっていきたいと考えています。</p>
<p>委員 長</p>	<p>ただ今、令和6年度児童館の子育て支援（案）について説明がありました。このことについてご意見、ご質問はありませんか。</p> <p>異議なしとのことですので、令和6年度児童館の子育て支援（案）につきましても、原案のとおり承認されました。</p> <p>以上をもちまして、本会に提出されました議事につきましては、すべて終了いたしましたので、進行を事務局にお返しします。</p>
<p>事務局</p>	<p>委員の皆様、速やかな議事の進行にご協力ありがとうございました。全体を通して、ご質問等はございませんか。</p>

最後に、こまきこども未来館の受付業務委託事業につきまして、ご報告がございました。今年まではこまきこども未来館講座等開催業務委託事業者とは別々の事業者へ発注をしておりましたが、令和6年度より事業を統合し、同一事業者が務めることとなりました。受諾事業者については、令和6年1月23日付で、現在もこまきこども未来館の講座運営委託事業を受託しております、特定非営利活動法人10人村に決定しております。それでは、これもちまして、令和5年度第2回小牧市児童館運営委員会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。事故のないように、お気をつけてお帰りください。